



春近し香り高き白梅

不屈

2023年3月
No.336号
治安維持法国賠
同盟島根県本部
〒693-0033
出雲市知井宮町
750-2
小玉信恵
☎・Fax
0853-23-3829

「ひとしじにて署名の目標達成を
県同盟 会長 佐々木忠昌

三月四日 県同盟の幹事会を開きました。
現在の署名の到達は、県全体で三百三十筆
という現状です。

近年、年ごとに署名数が減少してきて
ます。しかし世界や日本の情勢を前にして
何としても近年の傾向を脱しなければなり
ません。

先の幹事会の討論をうけて、松江八百筆
(安来含む)、出雲八百筆、大田二百筆、
江津三百筆、浜田二百筆、益田七百筆・
を当面の目標として私から提案します。

松江「わが青春つくるとも」上映 三百人近い参加で成功

去る二月十一日、「わが青春つくるとも」(伊藤千代子の生涯)の上映が松江・ステックビブル(松江市民活動センター)で開催され三百五十人を超す参加者で熱気に包まれました。昨年十月から実行委員会により準備してきた

もので、文字通り草の根の力が生かされた結果で、日ごろ共産党の演説会などではお目にかかるない市民の方にたくさん参加してもらえた。

とくに当日券を求められた方が五十六名もあり、実行委員会の追い上げの成果が表っていました。参加者からは「治安維持法による弾圧の実際がよく理解できた。」とか、「今まで戦争前夜のような情勢の中、こうした映画を計画してもらつたことは本当に時宜にかなつたもので、実行委員のみなさんに敬意を表します。」などの声が寄せられ、感想文も百人近く提出いたしました。

また受付は二十人以上の婦人の方々が仕切られて、参加者からは「庄していたね」・などと称賛の声も聞かれました。

この成果を五月に向けた署名につなげることが求められています。
(なお二三年後に、アンコール上映・という声も一部にあがっています)

私は、岸田政権の無謀な企み大軍拡で『戦争する国つくり』を遮二無二つきすすむ物騒な動きに警戒をしています。

こともあるうに野党第一党の立憲民主党すら大軍拡には頬かむりという危機的状況です。一九二五年の治

春の訪れを感じさせるオオイヌフクリ

実り豊かな署名を
歴史的岐路にふさわしく 署名の依頼文

益田・鹿生文部支部長

城市 昇



安維持法制定時にはそれでも、二四六対十八でした。

一九二八年の改悪のときには実に百七十人の反対がありました。今日、自民党には大軍拡に反対の意向を

唱えるものは、皆無に等しい状況です。

昨年十二月二十八日の『徹子の部屋』で、徹子さんから『来年はどんな年になりそう?』と問われ、タモリは『誰も予測できない。でもなんていうか新しい戦前になるんじやないか』とサラリと答えました。なかなかの卓見です。

今年の国会請願署名は『ふたたび戦争と暗黒政治を許さない』というキヤツチフレーズが生きるときはあります。生かすべき絶好のタイミングです。

支部は要求の一一致点での『市民と野党の共闘』をこの五年間一貫して重視してきました。今年も日本共産党、社民党、吉賀町職員労働組合、浄土真宗の十六ヶ寺、喫茶＆ギャラリー『草花舎』などに、協力をいたくことになりました。目標は六百人で、届けた署名用紙二百四十七枚、千二百三十五人分に相当します。

本当は、映画『ラーゲリより愛を込めて』で大きな反響で話題をよんでいる辺見じゅんさんのノンフィクション『収容所から来た遺書』に主人公として登場する隠岐西ノ島町出身の山本幡男（1928年3月15日治安維持法違反で逮捕・投獄）や、私宛に年賀状をいただいた、治安維持法犠牲者の最後の生き証人・菱谷良一さんのことも書きたかったのですが、今年国会請願署名の「協力のお願いの文書シングルにしました。

ご紹介します。

三寒四温の季節です。

さて国会請願署名ですが、釈迦に説法ですので何も言いません。

岸田政権は大軍拡を企み、日本が焦土になる危険があります。

五兆円の大軍拡より、国民が1年間の医療費窓口負担の五兆円を削つてくらしに回す方が、一番国民の求めていることではないでしょうか?

今年は『戦争か平和』かの歴史的岐路に立っています。

今年の国会請願署名は一九七三年以来五十回目の物騒な『戦争する国づくり』にすすむ今日、右も左もないと思います。

みんなが『戦争反対! 大軍拡反対!』の一点で手をつなぐときだと思います。

どうか「協力のほどよろしくお願ひいたします。今年の国会請願署名のもつ意義は、従来にもまして大きいと思います。

尚、四月三十日必着でお願いします。

一〇一〇年一月吉日

俳句・短歌 小玉伸惠

衣替え する間もなくて 冬きたる

武器を捨て 数珠を持とうと 小学生

減ページ 理解求める 冬至かな

ドローンにて 箱をネットに 投下する
郵便配達 実験の山村

松代の 大本營を ほうふつと
自衛隊基地の 地下化計画

短歌 故加藤嘉明氏

砂を掘りて つくりし竈（かまど） くすぼれり

少女ら以外に 大人びて見ゆ

砂の上に 眠りなづむ 一夜なり

海よりの日（陽） の 巨（おお） いなりにき

いち早く 獲物つり上げ 味噌汁を
つくりしはもつとも 吾を困らせたる子ら

